

令和7年度愛知県立西春高等学校学校評価

本年度の重点目標	1 主体性を育む 2 キャリア形成を支援する 3 自己肯定感を高める 4 教職員はメリハリのある勤務を心がける		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務 (総務部)	① 防災減災体制の整備と充実	・防災減災対策の強化 ・防災委員会の充実と生徒の防災減災意識の高揚	・「地震による校舎の倒壊は想定されない」前提のもと、避難訓練の実施形態を見直して、防災マニュアルの中身の見直しを進めた。訓練をする中で出た課題や、マニュアル見直しの過程で出た意見を、次年度に継続して検討していきたい。 ・今年度も防災委員会にて多くのアイデアを出してもらい、生徒目線からも防災の改善を図った。多くの教員や生徒を巻き込んだ取り組みで、学校全体の防災減災意識の充実を図ることができた。
	② 魅力ある学校像の発信	・学校説明会の充実 ・より充実した広報体制の確立	・夏休みの学校説明会では大幅に生徒の活躍する場面を増やし、西春高校の明るい雰囲気アピールすることができた。 ・学校案内をリニューアルし、西春高校の特色や取り組みがより伝わる内容となった。チラシ制作は昨年度ほど行われなかった。次年度は必要があれば複数の発行を実施する。
学習指導 (教務部)	① 主体性を育む授業実施と評価法の研究	・各教科が探究的な授業を実践し、その効果や評価方法を研究する。	・「主体的・対話的で深い学びを実現するための探究的な授業作り」研究協力校として、主に生物の授業を通して具体的な探究的な授業例を示し、校内での情報共有を行った。また、研究授業期間を通じて各教科で実践することができた。次年度は、全校で実施する予定である。
	② 授業の創意工夫と研究授業期間の充実	・研究授業期間の内容を見直し、主体的、対話的な授業方法を校内で共有する。	・研究授業期間に各教科で探究的な授業を実践する機会を設けた。今年度、他教科の授業にも参観しやすいよう授業一覧を作成したが、効果は限定的であった。実際に授業を参観した先生以外には十分に情報を伝えきれなかった感がある。研究授業期間のしくみ自体を再編し、より有用なものにしていきたい。
生徒指導 (生徒指導部)	① 社会規範の確立といじめの防止	・法令の遵守はもとより、身近な交通マナーやモラルを身につけさせ、公共性や社会性の拡充を図る。 ・学校生活のあらゆる場面で、道徳教育を実施することで、いじめを許さない健全な心の育成を図る。	・法令遵守や交通マナーの指導を継続したことで、生徒の公共意識や規範意識の向上が見られた。一方、一部の生徒には交通マナーが十分に身につけられておらず、地域からの指摘も見受けられた。 ・道徳教育については、学校生活のあらゆる場面で継続的に伝えていく必要がある。多くの生徒は他者を思いやる心を持っているが、言葉による行き違いから人間関係に悩む生徒もおり、家庭や地域と連携した指導の充実が課題である。
	② 学校生活の充実と主権者に向けての準備	・在学中に主権者になる自覚を持たせるため、全校生徒が安心・安全な学校生活を送れるような校則の見直しを教員だけでなく、生徒を中心にPTAにも協力を仰ぎながら取り組む。	・在学中に主権者としての自覚を育むため、校則の見直しを生徒会執行部が中心となり、スマートフォンの使用に関する校則の一部改正を行うことができた。 ・全校生徒の意見をより広く反映させるための体制や仕組みづくり、ならびにPTAとの一層の連携強化が課題として挙げられる。
進路指導 (進路指導部)	① 学力向上を目指す学習指導・自ら考え夢を実現する進路指導の充実	・生徒の進路意識の高揚を図るガイダンスや進路研究の実施 ・入試問題研究や模試結果の分析に基づく指導の充実 ・基礎早期テストを通じた基礎力の定着と学習習慣の確立	・1・2年生向けの進路ガイダンスにおいて、今年度は12名の卒業生を招いて対面で実施した結果、昨年以上に生徒の進路意識が高まった。 ・進路検討会・研究会を学年会と組み合わせることで効率的に実施できたが、1・2年生の研究会の目的を明確化することが課題である。 ・1年生のオリエンテーションにおいて、基礎早期テストの目的を教員・生徒で共有した。一部の教科で自動採点システムを活用することで、持続可能な方法を検討できた。
	② 多様化する大学入試への対応	・生徒、保護者等に対する適切な情報発信 ・最新の情報の正確な把握	・学校推薦型選抜の校内基準や申出期間等を、進路資料や説明会を通じて生徒・保護者に明確に情報発信した。 ・予備校等が行う説明会に出席することで、最新の入試情報を把握し、進路検討会や説明会で情報発信した。
保健厚生 (保健衛生部)	① 教育相談の充実	・全職員で生徒の様子を観察していただき、生徒の心身の健康状態の悪化を防ぐべく情報を関係職員で共有し早めの対策を講じる。	・各学期に特別支援教育委員会を開催し、支援が必要な生徒の情報の共有を継続的に行うことができた。 ・緊急の対応が必要な事案では臨時のケース会議を開催し、組織的な対応につなげることができた。
	② 環境美化活動の充実	・生徒や教員の清掃活動の負担を軽減しつつ生徒の美化意識を高める。 ・環境負荷の小さいごみの出し方について生徒に考えさせる。 ・西春祭での美化活動を美化委員会で取り組む。	・職員数の減少に伴い、複数箇所の清掃監督を行う教員が増えているが、生徒自身が主体的に清掃活動に取り組む様子が見られた。 ・西春祭での美化活動では美化委員会を中心にしっかりと取り組むことができたが、美化委員の生徒の負担が大きくなってしまった。西春祭などの平常時を大きく上回る量のごみが排出される行事におけるごみ処理方法について、より効果的な方法を検討したい。
生徒会活動 部活動 (特別活動部)	① 学校行事の充実	・生徒が主体的に取り組むことができるように支援する。達成感と充実感を得られるような学校行事となるように工夫する。	・文化祭、体育祭、球技大会など学校行事の企画、準備において生徒が主体的に行動し、運営することができた。特に外部の体育館を利用して行った体育祭では、生徒も初めての経験で多くの困難に直面していたが、一つ一つ克服しながら工夫して運営することができた。
	② 生徒会活動の充実	・生徒議会の効率的な運営と各委員会との連携を充実させる。	・各委員会の検討事項を行事の運営に反映することができた。また校則検討委員会には、生徒会役員が生徒代表として参加し、スマートフォン利用についての校則改定を提案、実行することができた。今後は、スマートフォン利用のモラルやマナーの徹底を継続していくことが課題である。
図書情報教育 (図書情報部)	① 読書活動の推進	・委員会活動などを通して読書に親しむを持てるような啓発活動を行う。	・委員会活動や校内啓発を通して、読書に親しむ雰囲気づくりを進めることができた。特に、図書委員会によるおすすめ本の紹介や展示等の取組により、生徒が本に触れる機会は一定程度確保された。
	② ICTの利用の推進	・行事や学習面でICT(ロイロノート、Teamsなど)の効果的な活用を図る。 ・ICTの利用による校務効率化を図る。	・ロイロノートやTeamsを行事運営や授業、連絡業務に活用することで、情報共有の迅速化や校務の効率化が図られ、ICTの有用性について教職員・生徒双方の理解が深まった。
学年指導 (第3学年)	① 社会を生き抜く力・主体性の育成	・今年度成人になることを自覚させ、主体的で責任感のある行動力を育成できるよう働きかける。	・進路指導やその他の場面において、責任をもって決断し行動できるよう働きかけをおこなった。西春祭ではリーダーの生徒を中心に主体的な活動ができ、上級生らしい発表ができた。下級生にも良い影響を与えられた。
	② 目標の実現に向けての指導の充実	・丁寧な進路指導を心掛け、主体的な選択を促す環境を整える。	・各教員が持ち味を活かし、補習や授業、その他の場面で生徒や教員間でのコミュニケーションを大切にしながら進められた。自習ができる学習環境もできる限り整えることができた。
学年指導 (第2学年)	① 主体的で責任感のある行動力育成	・様々な場で、自ら考え積極的に行動する勇気を養う。	・学校行事への積極的参加はできていた。修学旅行の欠席者も0人であった。
	② 結果ではなく、過程を重視できる力の育成	・2年後を想像し、将来のために今できる事を全力で取り組むよう働きかける。	・任意参加の模試へも積極的に参加し、オープンキャンパスへも積極的に参加していた。 ・ほとんどの生徒が善悪を判断できる集団になった。
学年指導 (第1学年)	① 規則正しい生活習慣の確立	・安易に遅刻をさせない雰囲気をつくり、チャイムの鳴り始めて授業が始められる習慣を作る。	・年度当初はチャイムが鳴る前に着席完了ができていたが、学校生活の慣れとともにチャイム前着席ができない生徒を見かけるようになった。安易な遅刻者はほほばいない状態で学校生活は送れている。
	② 自ら考えて行動する態度の育成	・日々の学校生活や行事等を通じて生徒一人一人が自ら考えて行動する態度を養う。	・学校生活や行事を通じて成長した生徒は数多くいるが、指示を待っていて行動ができない生徒、指示を仰がないといけない場面で自己判断になってしまったりする生徒が少なからずいる状態である。
総合評価	<p>・愛知県教育委員会と総合教育センターからの委託事業(「課題解決探究学習推進事業」「主体的・対話的で深い学びを実現するための探究的な授業づくりに関する研究」)に係る実践を通して、全教科で探究的な学びの推進を図り、授業に生成AIを取り入れるなど、効果的な教育活動を研究した。</p> <p>・卒業生によるガイダンスや講演を積極的に実施するなどして、進路実現に向けてより具体的なイメージを膨らませ、生徒のキャリア形成の一助とした。</p> <p>・学校行事や学校説明会などに対する生徒の参画をさらに推進し、生徒の主体性を育み、達成感や自己肯定感の向上へ繋げていった。その結果、生徒による校則の見直しにつながった。</p> <p>・避難訓練や防災マニュアルの改訂に生徒の意見を取り入れるなど、生徒と教員の協働による改善が見られた。</p> <p>・学年や分掌が連携していじめの予防と早期発見に努め、定期的に特別支援教育委員会や相談部会を開き、必要に応じて外部機関との連携を図るなど、組織的に対応した。</p> <p>・在校時間記録で教職員の勤務時間を把握するとともに、分掌の協働や協業を推進し、業務の平準化と多忙感解消を図ることを通じて、教職員のメンタルヘルス維持に取り組んだ。</p> <p>・学校運営や授業にICTを積極的に活用するとともに、定時退校日を増やし、定時退校を呼びかけたりしながら、効率的な業務遂行を促した。その結果、意識が向上し、在校時間の削減につながった。</p>		